情報提供・国内連携

INFORMATION SERVICES AND NATIONAL NETWORKING

3事業分野の活動と連動した国際交流に関するさまざまな情報提供の強化に加え、国内活動を効率化・円滑化するための緊密なコミュニケーションもジャパンファウンデーションの重要なミッションです。2004年5月に設立された「情報センター」を核に、インターネットや刊行物など各種メディアを通じたメッセージの伝達や、顕彰事業、さらに市民レベルでの国際交流活動支援など、複合的な方法を組み合わせて情報を有機的な連携に変える活動をめざしています。

情報提供

情報提供・国内連携に向けた「情報センター」を中心とする活動の具体的内容をご紹介します。情報提供は、印刷メディアとインターネットを両輪に「国際交流基金図書館」を含めたさまざまな接点を通して行なわれています。また、「国際交流基金賞」をはじめとする顕彰事業やJFサポーターズクラブ、ジャパンファウンデーションボランティア制度などを通し、私たちの活動に協力いただける人々との連携を確かなものにしています。

情報センターをあたらしく設置しました。

国際交流の担い手はますます多様化し、拡大しつつあります。ジャパンファウンデーションではこうした時代変化に対応して、2004年5月の機構改革にあわせて情報センターを新設しました。情報センターでは国際交流の魅力やおもしろさを多くの方々へ伝えるための「事業情報の発信」と、国際交流の担い手の方々が必要とする情報の提供およびコンサルティングを行なう「国際交流情報の提供」という2つの柱を軸にして、事業を進めております。

情報センターでは、広くみなさまからのご質問・ご相談を受け付けております。ジャパンファウンデーションの事業、ジャパンファウンデーションの公募プログラム、その他国際交流に関するお問い合わせは、情報センターまでお願いいたします。

お問い合わせ：ジャパンファウンデーション　情報センター（平日10：00〜17：00）
Tel: 03-5562-3538　Fax:03-5562-3534

『国際交流』が『遠近（をちこち）』としてリニューアル

『遠近』誕生にかける想い。

これまで30年にわたり季刊『国際交流』を発行してきましたが、2004年10月より隔月刊『遠近』（をちこち、wochi kochi）としてリニューアル発行しました。

名称は、日本語・日本文化を海外に知らしめ、さらに諸外国との相互理解を深めたい、また、「国家と国家」だけでなく「人と人」を結ぶ文化の掛け橋としての役割を果たしたいという想いを込め、場所と時を示す指示代名詞で、「あちらこちら・ここかしこ」「未来と現在」を意味するやまと言葉に由来しています。「国際交流がつなぐ彼方と此方」を実現したい…、それが編集部の願いです。

編集内容としては、主に次の3点が挙げられます。

（1） 日本文化の魅力を「国際財」として対外的に発信できる支持基盤を世論のなかでかたちづくれるよう、時宜に応じた特集を組む
（2） ジャパンファウンデーションの活動内容を、読者にとって有益で興味深い読み物として提供する
（3） 時代の流れを把握しながら、ジャパンファウンデーションならではの独自の視点から情報を提供していく

このように、『遠近』は日本で唯一の国際交流専門誌として内容をさらに充実させていきます。文化交流に携わるすべての人々の必読書として、ぜひご愛読いただきたいと思います。

2004年度に発行した『遠近』

No.1　特集：文化の力　交流の営み
本誌リニューアル第1号では、真正面から「文化」と「交流」について考える特集を組みました。急速な変化を続ける国際社会の中での日本文化のあり方、またそうした位置付けの中での日本の国際文化交流を専門に行なうジャパンファウンデーションの役割について、さまざまな側面から考えました。

No.2　特集：アジアはいま　わたしたちどこかでお会いしましたか？
ジャパンファウンデーションの文化人招へいプログラムで韓国から来日した趙英男さんとの対談や、アジアの現在美術を紹介する展覧会「Have We Met?」展のキュレイターを囲んだ座談会を通して、日本ではなかなか紹介されにくい現在アジアの姿をお伝えしました。

No.3　特集：変わる日本　世界に開くコミュニティ
国際結婚や留学生が増加し、経済活動のグローバル化や地域社会の国際化が進んでいる現状を踏まえ、多文化共生や地域活性化に資する国際交流のさまざまな取り組みを紹介しました。

その他の刊行物

データベースやメールマガジンを活用した英語版ニュースレター。

ジャパンファウンデーションWebサイトにニュースレターのデータベース（英語版）を構築し、日本の最新文化・社会事情などのデータを英文で蓄積していくほか、個人の方むけにはメールマガジン（英語版）を活用することにより、情報のスピードアップ化もはかっています。ぜひご一読ください。

海外の日本語教育をサポートする日本語教育通信。

海外の日本語教師および学習者を対象として、教材情報、授業のアイディア、日本事情や内外日本語教育情報等を提供します。

ホームページでは全ページご覧いただけます（日本語、http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html）。

日本語教育通信

ホームページ・メールマガジンによる情報発信

ホームページ・メールマガジンで最新情報をいち早く発信。

ホームページ（http://www.jpf.go.jp/）を通じて、ジャパンファウンデーションの最新情報を発信しています。更新情報は、毎週発行しているメールマガジン（日・英）を通じて、いち早く皆様にお届けしております。ジャパンファウンデーション事業にご関心のある方は、ぜひご登録ください。

公募プログラムガイドラインに関する情報もホームページを通じて提供しています（http://www.jpf.go.jp/j/about_j/program_j/index.html）。

また、ホームページからは事業を通じて蓄積された様々なデータベースや関連サイトへもアクセスできます。

Performing Arts Network Japan
（日・英、http://performingarts.jp/）

稀に見る多様性をもつ、刺激的な日本の現代舞台芸術情報を海外に発信することを目的に創刊された、毎月更新のWebサイトです。また世界の舞台芸術シーンの動向にも注目し、フェスティバルや見本市の情報を発信するとともに、インターナショナルプレゼンターの紹介を併せて行ない、国際交流の活性化を図ります。

Japanese Studies Network Forum
（英語、http://www.jsnet.org/）

海外における日本研究者同士のネットワーキングを支援するWebサイトです。

国際交流基金図書館

どなたでもご利用いただける専門図書館を運営しています。

国際交流基金図書館は、外国語で書かれた日本関係の図書資料および現代アジアの文化・社会を紹介する資料を所蔵する専門図書館です。国際交流に関する情報窓口として、関連する情報を収集・提供しており、どなたでもご利用いただけます。

新たに「高円宮記念文庫」を開設しました。

47歳の若さで突然ご逝去された高円宮憲仁殿下は、長くジャパンファウンデーションに勤務され、文化芸術・スポーツなど多岐にわたる分野で自ら国際交流の現場に携わられてきました。

殿下の蔵書の一部を妃殿下からご寄贈いただき、文化・芸術関係を中心とした約500冊のコレクションを2004年10月から公開しています。

高円宮記念文庫目録授与式にご出席された
高円宮妃久子殿下　(©高木厚子)

ジャパンファウンデーションでは、「国際交流基金賞・国際交流奨励賞」および「国際交流基金地域交流賞」を設け、国際交流活動に貢献があり、今後ますます活躍が期待される個人や団体を対象に顕彰を行なっています。

2004年度 国際交流基金賞・国際交流奨励賞

1973年以来毎年、学術、芸術その他の文化活動を通じて、日本に対する海外の理解もしくは日本人の対外理解を深め、国際相互理解の促進において顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」（副賞500万円）および「国際交流奨励賞」（副賞200万円）を授賞しています。

「国際交流基金賞」は、長年にわたり特に顕著な貢献のあった個人または団体に、「国際交流奨励賞」は、独創性・先駆性に富み、将来にわたる活躍が期待される個人または団体に贈られます。また「国際交流奨励賞」は、国際交流基金の事業の柱である「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究（知的交流）」の3分野に対して贈呈されます。

ジャパンファウンデーション外部の有識者による推薦・選考の結果、2004年度の受賞者は以下の4名に決定しました。

国際交流基金賞

穐吉 敏子（あきよし としこ）氏

ジャズピアニスト・作曲家【日本】

ジャズの分野で演奏家、作曲家およびバンドリーダーとして多大な業績をあげるとともに、音楽活動を通して、20世紀以降に人類が置かれた状況を問い、平和と協調のメッセージを世界に発信してきた功績に対し、国際交流基金賞を受賞。1999年には、ジャパンファウンデーションの派遣助成を受け、南米を巡回公演したほか、2003年、リンカーン・センターでビッグ・バンド結成30周年記念公演を開催。2004年には、セクステットでの来日公演を果たしました。

国際交流奨励賞

文化芸術交流賞

ジェームズ・クワント 氏

シネマテーク・オンタリオ シニア・プログラマー【カナダ】

北米地域において、ほかの文化圏、特に日本の映画の上映会や出版物の刊行を通して、日本の優れた映像文化の研究と紹介に顕著な業績をあげてきた功績に対し、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を受賞。1990年より、シネマテーク・オンタリオの上映企画を担当し、1991年、ジャパンファウンデーションの招へいにより訪日を実現しています。

日本語教育賞

李 徳奉（イー・トクボン）氏

同徳女子大学校 外国語学部教授【韓国】

日本語教育学の分野において先駆的な業績をあげ、多くの後継者の育成に努めるとともに、韓国日本学会会長などの要職を歴任。韓国における語学教育政策の形成にも優れた寄与を行なってきました。韓国と日本の人々の相互理解促進に大きく貢献したその活動により、国際交流奨励賞・日本語教育賞を受賞。2001年より明海大学客員教授を兼任。

日本研究賞

高良 倉吉（たから くらよし）氏

琉球大学法文学部教授【日本】

アジアという広い視野から沖縄の歴史を考え、海外の研究者とのネットワークの構築を通し、先駆的な研究活動を展開。アカデミズムの枠を超えた広範な層に影響を与え、日本の将来像を考究するうえで多くの示唆に富むこれらの成果により、国際交流奨励賞・日本研究賞を受賞。沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館長を経て現職に就任。

2004年度 国際交流基金地域交流賞

本賞は、地域に根ざした国際交流の重要性が広く認識されたことを受けて、1985年より「国際交流基金地域交流振興賞」を設けています。2004年度、第20回目を迎えるとともに、地域における国際文化交流活動が発展し、多様化していることから、賞の趣旨を見直し、名称を「国際交流基金地域交流賞」と改め、副賞を150万円から200万円といたしました。単なる交流や相互理解を超えて、地域の変革や活性化に繋がる国際的な地域間交流や文化交流、相互理解の促進に貢献された団体・個人に授賞しています。

2004年度は、マスコミ、国際交流団体、自治体など、各界から寄せられた125件もの推薦をもとに、書類審査、現地調査、選考委員会を経て、地域性、先導性、継続性、自発性、相互性などの選考基準に照らした厳正な選考により、受賞者を決定しました。

受賞団体

国際交流を通じた地域づくりと多文化共生社会実現への試み

戸沢村国際交流協会

山形県戸沢村／芳賀 欣一 会長／1990年設立

戸沢村は、1985年より途上国向けの農業指導などを行なっているアジア学院(1989年度受賞団体)との交流を始め、韓国農村との草の根交流も積極的に行なっています。1990年には、戸沢村国際交流協会(当初は国際交流塾)を結成。自治体が取り組んだ農業後継者対策としての国際結婚を進めるなど、言葉や文化の違いを超えた多文化共生社会の実現を目指しています。現在は、韓国農村との農業技術や食文化の交流、児童の相互交流が行なわれ、両地域に共通する課題の解決を図っています。地域の基幹産業や食文化の交流から出発し、「戸沢流キムチ」や「戸沢流冷麺」など、新たな特産品のための生産組織化、日韓友好のテーマパーク「高麗館」での韓国文化の紹介への協力を通じ、地域経済の活性化や地域ブランドの確立に貢献しています。

市民ボランティアの力によるカンボジアでの学校建設

特定非営利活動法人セカンドハンド

香川県高松市／新田 恭子 会長／1994年設立

市民から無償提供された衣類や生活用品を、無料もしくは格安で貸借した店舗で販売し、全収益をカンボジアでの学校建設などの海外支援に充当。現在では、カンボジアに11の小学校、2つの医療施設、職業訓練所、孤児院が建設されています。販売や物品の仕分けなどの活動は、すべて無償のボランティアが行なっており、当初、1軒の小さな店舗から開始した活動が、次第に賛同者を集め、来店者にも「ショッピング」という気軽な行動が、海外への支援に繋がるという意識が共有されるようになりました。2003年には、県内の中高校生たちが、自主的に「学生部小指会」を結成し、1年間で120万円の募金を集め、カンボジアの中学校の建設に大きく貢献。地元学生や地域の方々にとって、国際交流の活動が全国に広がっています。

長崎ならではの留学生が主役の国際交流

長崎国際交流塾

長崎県長崎市／牛嶋 洋一郎 塾長／1992年設立

1992年、長崎市民と在住外国人が日常的な交流を行なうことを目的に、長崎市が地域活性化事業の一環として創設した「長崎伝習所」の一つの塾として発足。その後、「長崎国際交流塾」として、ともに暮らす隣人同士の「交流を日常化」させることにより、多文化共生社会の実現を目指して活動しています。1997年、長崎市より依頼を受け、「東山手地球館」をオープン。留学生やその家族が日替わりでお国自慢の料理を提供する「ワールドフーズレストラン」を運営するほか、学生や修学旅行生を対象として、国際理解体験学習を実施しています。2003年より、留学生が長崎市内を案内したり、自宅に招き母国の文化を紹介する「逆ホームビジット型国際交流プログラム」を企画・実施するなど、留学生たちが主体となって活動しています。

国内連携

グローバリゼーションやＩＴ産業の進展といった要因から、国際交流をめぐる環境は大きく変化しています。また、日本各地で活躍しているさまざまな国際交流団体とその担い手も、環境、福祉、都市や社会の活性化など多様な分野で活動しており、従来の親善交流型から地域社会の課題解決や協働につながるものとなっています。ジャパンファウンデーションは、国内の国際交流団体間、あるいは個人の間の横断的な連携と参加型交流を支援しています。

国際交流セミナー

国際交流をテーマにさまざまなセミナーやシンポジウムを開催。

国内連携の促進を目的として、国際交流に関する多様なテーマを取り上げ、セミナーを開催しています。2004年11月には、サントリー文化財団との共催でシンポジウム「地球が舞台～地域文化と国際交流を考える」を開催しました。基調講演は、川淵三郎日本サッカー協会キャプテンに、またパネル・ディスカッションではモデレーターに御厨貴東京大学先端科学研究センター教授、パネリストに上山信一慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授らを迎え、それぞれの風土と歴史にはぐくまれた多様な地域文化は世界につながるソフトパワーであり、さらに地域変革の源になりうるとの可能性が示唆されました。

また、2005年が日・EU市民交流年であることから「日・EU市民交流セミナー～日本とEUの新たな出会い」を開催しました。

このほか、「ワン・ワールド・フェスティバル」、「国際教育シンポジウム～学校現場から国際教育活動を見直す　日本および海外双方の視点から～」、「第2回国際交流・協力実践者全国会議」、「今、なぜ新渡戸か？～『武士道』そして五千円札の顔～」などの事業への共催と助成を行ないました。

シンポジウム「地球が舞台」

国際交流フェスティバルへの参加

全国各地の国際交流フェスティバルに参加。

ジャパンファウンデーションでは、広くみなさまに活動の様子や公募プログラムについて知っていただくために、全国各地で開催されている国際交流フェスティバルへの参加を進めております。

会場では、インターネット日本語能力試験「すしテスト（p.25）」のデモ体験を行ない、日本語学習者にとっての難しいポイントが何なのか、という日常ではなかなか体感できない機会を提供してきました。

参加予定のフェスティバル情報はホームページでお知らせしています。

国際交流フェスティバル会場にて

クイズラリー（むさしの国際まつり）

京都支部

事務所を移転し心機一転。秋の定番イベントも大盛況にて終了。

京都支部は2004年3月6日に事務所を移転し、気持ちも新たに「日独仏シンポジウム」などの事業に取り組みました。なかでも、関西国際センター・京都新聞社共催イベント、第31回「国際交流の夕べ—能と狂言の会」は、秋の京都を彩る年中行事として定着。関西在住の外国人研究者、留学生や日本人を対象に、日本の伝統文化への理解促進を目的に実施され、毎回高い評価を得ています。今回、能は観世流・片山清司師「敦盛　二段之舞」、狂言は大蔵流・茂山千五郎師「二人袴」を上演。アンケート結果では、「大変良い」「良い」の割合が90％と、大変好評でした。

日独仏シンポジウム

ジャパンファウンデーションボランティア制度

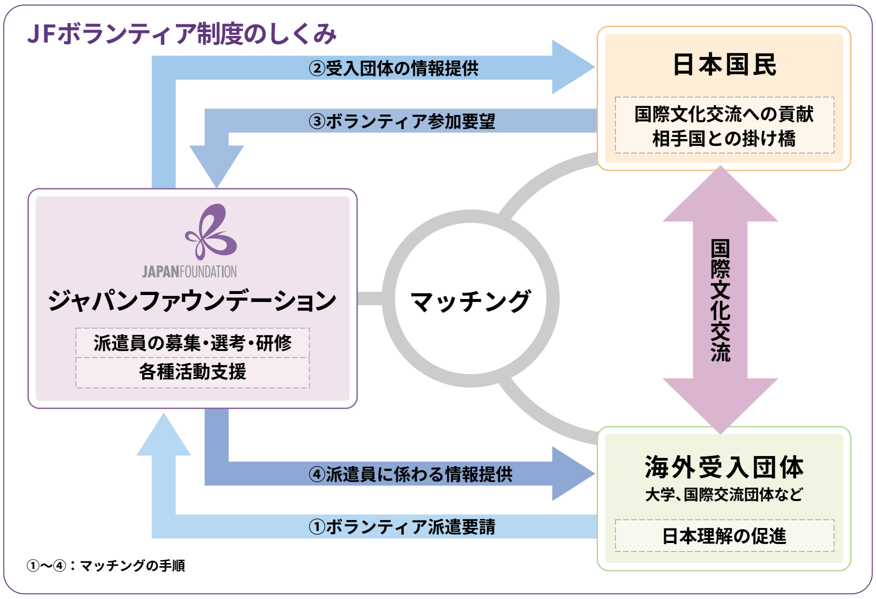
ボランティア活動を通して、国民レベルでの国際交流を実現。

近年、諸外国において、日本文化に対する関心が高まり、日本との国際文化交流を希望する声が増えています。また、日本国内でも、国際文化交流にボランティアとして貢献したいという要望が多く寄せられていました。こうした海外でのニーズと日本国内のボランティアに対する熱意の高まりを受け、国際文化交流を国民レベルで促進することを目指し2004年度に「ジャパンファウンデーション・ボランティア制度」を新設しました。

2004年度は、海外での業務遂行に必要な一定程度の技能や専門性などを条件に9月から12月までに3分野で募集・選考を実施しました。海外の日本語教育機関で、ジャパンファウンデーションから派遣された専門家などの支援を受けて日本語を教える「海外日本語教育指導助手」や、海外の二国間友好団体などで日本との文化交流事業の企画運営業務の補助に当たる「文化交流企画運営補助」、さらに海外の大学・大学院の日本研究講座で講義や指導を行なう「シニア日本研究客員教授」の各分野に初年度から多くの応募者が集まりました。

決定したボランティアたちは2005年度中に順次各受け入れ団体へ派遣され、現在各地で精力的に活動しています。

このボランティア制度は2005年度以降も引き続き実施し、より多くの方々に参加いただけるよう内容の充実を図っていきたいと考えています。



修学旅行生等の受け入れ

見学・訪問の受け入れのほか、職員による学校訪問を実施。

ジャパンファウンデーションでは本部や附属機関で外部からの見学・訪問を受け付けています。2004年度本部には、全国から10組の修学旅行生が来訪しました。他に、大学の国際交流学科の研究室やゼミ単位での訪問も受け付けております。

またジャパンファウンデーションの職員が学校等の教育現場へ伺い、海外事務所駐在時代のエピソード等も交えながら、文化交流のダイナミズムについてお話しをさせていただくといったことも行なっております。

国際交流や異文化理解教育、多文化共生等といったテーマついて、私どもの事業を通じて一緒に考えませんか？

職員が文化交流の現場について語ります

修学旅行生等の受け入れ概要

日　　時：平日の10：00〜12：00、14：00〜17：00の間で１時間程度
内　　容：事前にみなさまから質問表（どういったことを知りたいのかについて）をいただき、それを基に担当者の方で準備させていただきます。
例）JF紹介ビデオ 15分 ▶ JF事業全般に関する説明 15分 ▶ 質疑応答 15分 ▶ オフィスや図書館の見学 15分

人　　数：最大10名程度（10名以上の場合は応相談）
申込方法：１．電話で、情報センター（Tel: 03-5562-3538）までご連絡ください。
２．ご希望の日時をお伝えください。
３．追って、訪問される方全員の氏名および質問事項（知りたいこと、関心があることなど、なんでも結構です）をFAXで情報センターまでお送りください（Fax:03-5562-3534）。

日本語国際センター（埼玉県さいたま市）や関西国際センター（大阪府田尻町）でも、外部からの訪問を受け付けております。
ご関心のある方は、以下の宛先までお問い合わせください。
日本語国際センター総務課　Tel:048-834-1181　　関西国際センター総務課　Tel:0724-90-2601

JFサポーターズクラブ

「ジャパンファウンデーションの活動をもっと身近に感じていただきたい。できればひとりひとりの方々に国際交流の担い手として参加いただきたい！」との想いをこめて2004年10月、新たに「JFサポーターズクラブ」がスタートしました（旧「友の会」と旧「賛助会 個人会員」の両会員制度を継承）。
パートナー、アソシエイト、フレンドの3コースを設け、ジャパンファウンデーションのイベント案内、会員だけが閲覧可能なWEBサイトの利用、有料イベントの割引料金適用や各種事業へのご招待、国際交流専門誌『遠近（をちこち）』の送付など、多彩な特典を提供しています（コースによって特典内容が異なります）。
2005年3月末時点で、パートナー228名、アソシエイト347名、フレンド374名の方に入会いただいております。

会員限定のサイトや特典

限定コンテンツもご用意した JFサポーターズクラブ会員サイト。

JFサポーターズクラブ会員サイトには、会員の方だけにアクセスいただける以下の各コーナーを設けました。

- イベントカレンダー：ジャパンファウンデーションの主催事業を中心に、内外の国際交流イベント情報をお届けしています。
- フロントランナー：さまざまな分野の方々からの国際交流に関する寄稿や、ジャパンファウンデーションのスタッフによる事業レポート／国際文化交流への想いを綴ったエッセイ等を掲載しています。
- 国際交流トピック：海外事務所からの現地情報をはじめとする最新のトピックを集めています。
- 国際交流基金出版物：ジャパンファウンデーションの各種有料出版物をPDFでご覧いただけます。
- ゲストブック：JFサポーターズクラブ会員専用の掲示板です。国際交流についてのお考えを自由に交換できるみなさまの広場です。

JFサポーターズクラブ会員サイト

メールマガジンで タイムリーな情報提供。

3月末までに13号のメールマガジンを配信し、事業情報を中心とした国際交流情報をタイムリーに提供しました。

イベントの会員割引やご招待など 会員特典の提供。

ジャパンファウンデーションが開催するさまざまな映画祭、展覧会、演劇、コンサートを会員価格でお楽しみいただきました。また、会員割引に加え、パートナー会員の方々を数々のイベントにご招待しました。

JFサポーターズクラブ ボランティア派遣

「コリア･ジャパン･ロードクラブ フェスティバル」に派遣。

ソウルでもっともホットなエリア、ホンデ地区一帯で開催された音楽とアートのオールナイトイベント「コリア・ジャパン・ロードクラブフェスティバル」。ジャパンファウンデーション初のヒップホップ／DJアーティストをフィーチャーした大イベントに、JFサポーターズクラブ会員の中から選ばれた4名の方がボランティア特派員として参加しました。

ボランティア特派員のみなさんは、ホンデ地区のクラブや特設イベント・テントを縦横無尽に駆け巡り、臨場感あふれるライブレポートをインターネット配信しました。また同時に、現地からのリアルタイム・レポートを読んだ日本国内の方からはBBSを通じてコメントをいただきました。

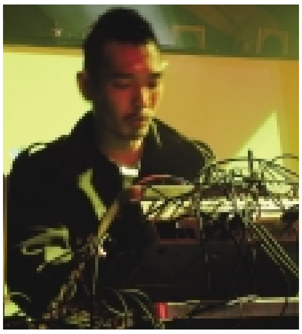
特派員レポート① 「イベント前半戦開始！」

ついに始まった！ロードクラブフェスティバル。ここホンデ地区ならではのファッショナブルな衣装に身を包んだ若者たちが、道行くおじさんおばさんを圧倒している。この図が結構面白い。ショーの前半戦、まだ人はまばらだが、ビートに乗って踊り、音を楽しんでいる様子が伝わってくる。ライブゾーンは、チュコクという韓国有名ラッパーの突然の（よくある？）キャンセルもなんのその、代わりのラッパーが大いに盛り上げ、笑いあり、涙あり（？）の舞台を見せてくれた。お客さんも舞台と一緒になってノリノリだ。（松島 彩）

©Haruo Matsuya

特派員レポート② 「ここはほんとにソウルなの？？」

Q-voというクラブはすごい行列！やっとのことで会場に入るとDJ.KENTAROの素晴らしいプレイ！オーディエンスもノリノリ！そしてでたKENTAROのお家芸的プレイ、「さくらさくら」！これを聞いてフロアを眺めていると、ここはソウルのクラブ？？と思うほど。韓国のオーディエンスも割れんばかりの拍手と大歓声！さすがのケンタローもこの拍手と歓声には大きなリアクションで敬意を表していた。「けんたろー！」という男性の叫び声が印象的！クラブを後にするときも、入り口はいまだに長蛇の列！（河村 一政）



©Haruo Matsuya